

(続紙 1)

京都大学	博士 (地球環境学)	氏名	NGUYEN NGOC TUNG (グエン ゴック トゥン)
論文題目	Conserving Hue Traditional Garden Houses for Contemporary Use in Hue Citadel Area, Vietnam (ベトナム・フエ京城都市における伝統的庭園住宅の発展的継承)		
(論文内容の要旨)			
本論文は、ベトナム・フエ京城都市における伝統的庭園住宅(以下「フエ庭園住宅」とする)の発展的継承を目的とし、住宅環境としての現代適応と都市文化財としての保存継承とを均衡させる適切な方策を考察したもので、全7章構成となっている。フエ庭園住宅は、元来阮朝王宮の官僚住宅として風水思想に基づく庭園付き平屋住宅として発達し、先祖礼拝の空間を中心とする‘主屋’と生活機能を中心とする‘付属屋’で構成される。官僚子孫として代々継承してきた世帯と、後世にフエ庭園住宅を購入した世帯があるが、いずれも先祖礼拝を基軸とする生活様式を堅持してきた。 第1章は序論であり、研究の背景と目的、論文の構成を示すとともに、京城内で確認されたフエ庭園住宅84件を対象とする外観調査、及び84件中56件で実施した建物実測、住民インタビュー等の詳細調査に関する研究概要について説明した。 第2章では、これまでのフエ庭園住宅に関する既往研究が、歴史的考察にのみ焦点が当てられたのに対し、本論文は‘都市化の進行’、‘生活の現代化’、‘市場経済の発展’による‘住宅の変容状況’や‘生活様態の変化’に着目し、今後の発展的継承に新たな知見を提示する独自性を示すことで研究の位置づけを明らかにした。また、フエ庭園住宅の保存施策に関するこれまでの法的整備の流れを整理した。 第3章では、フエ庭園住宅がもつ歴史文化的な価値を都市的スケールから考察し、風水思想に基づき造られた京城と同様の構成要素が全84件で見られ、相似的な構造関係をもつことを明らかにした。また44%の住宅においては、主屋の先祖礼拝空間と屏風壁・水盤を結ぶ軸線方向までも京城と同一で、現在でも適切に保存されている住宅が多く、フエ庭園住宅の精神性を保持する重要な要素であること明らかにした。 第4章では、ゴトイニャム通り9番地のフエ庭園住宅をケーススタディとして、保存状況の確認、建物の増改築及び各室空間利用の変容過程把握、生活様態の変化や伝統的儀礼(先祖礼拝)に関する聞き取り、政府の保存施策に対する意見等をまとめ、次章以降のフィールド調査の項目整理をおこなった。 第5章では、まず84件のフエ庭園住宅の外観調査に基づき、ファサード構成を7形式に分類し、各変容形式の関連性を分析した。また、56件の詳細調査では、商業的な空間転用、世帯構成員の増加、周期的洪水の被害回避等を契機とする平面的増改築、垂直的増改築(二階建て)の変容パターンを分析し、付属屋の変容は顕著であり主屋での変容度は低いことを示した。これにより、新たな生活質の欲求を付属屋で実現しながら、伝統的慣習の維持を主屋に込めるという空間変容の傾向を明らかにした。 第6章では、2006年より京城内外のフエ庭園住宅150件を対象に、フエ市が取り組んでいる保存登録活動が2011年時点で52件に留まっている上、実質的な保存活動に至っていないことを明らかにした。また、詳細調査を実施した56件のフエ庭園住宅の内、24件でフエ市から保存登録を以前推薦されたが17件が拒否しており、77%の住民が政府主導の保存活動より、住民自身による保存継承が重要である意見をもつことを示した。その理由として、住民や政府関係者へのインタビュー調査から、保存内容の不明確さや登録までに時間を要するために保存活動に対する住民への動機付けがなされにくいこと、及びフエ市の保存委員会では建築家や研究者など専門家の参画がなく効果的に組織が機能していないこと明らかにした。 第7章は結論であり、各章で示された主要な成果をまとめ、今後のフエ庭園住宅の発展的継承に向けた方策を示している。			

(続紙 2)

(論文審査の結果の要旨)

ベトナム中部のフエ市は、阮朝(1802-1945)王宮を中心に発達してきた歴史都市で、フエ庭園住宅は京城内及び周辺地域の王宮官僚住宅として、歴史都市における主要な構成要素となっている。1993年には、王宮建築群がユネスコ世界遺産に指定され、現在も王宮内の保存修復活動が積極的に行われている。一方、フエ庭園住宅はこれまで具体的かつ実効的な保存活動がなく、近年顕著な都市化の進行、生活の現代化、市場経済の発展を主要因として急速に棟数が減少している(京城内で1998年101棟、2006年91棟、2011年84棟)。フエ庭園住宅は、風水思想に基づく京城都市の内的世界観を庭園と建物によって相似的に表徴された空間を有し、多くの住宅において王宮官僚の子孫が代々先祖への畏敬とともに暮らしてきた生きる都市文化財として、現在その有効な保存継承が求められている。本論文は、観察・実測調査に基づくフエ庭園住宅の変容状況の整理、またインタビュー調査に基づく変容要因分析や保存活動の現状把握を通して総合的な評価・検証をおこない、現代社会における発展的継承の課題点を明らかにしながら今後の方策を提示した。得られた成果は以下の通りである。

1. 京城内に現存するフエ庭園住宅84件(2012年現在)の外観調査と、その内56件の詳細な建物実測調査により、庭園を含む配置図、平面図、立面図、断面図を作成した。また、インタビュー調査により建物変容過程と空間利用の変遷を詳細に記録した。これらのデータは本論文の評価・検証に有用なだけでなく、失われゆくフエ庭園住宅の貴重な資料的価値をも有する。

2. 住宅環境としての発展的変容を受容しつつ、都市文化財としての価値を維持する方策として、以下のように結論づけた。(1)建物の形態保存だけでなく、風水思想を表徴する庭園構成に配慮し土地形状維持に努めること。(2)主屋の先祖礼拝空間と屏風壁・水盤を結ぶ軸線空間の保全は最優先であること。(3)伝統的建築資材がもつ暖色系の色調を配慮すること。(4)主屋は親族の共有礼拝空間である意識をもつとともに、居間や就寝の日常生活空間としても活用することが保全に有効であること。(5)店舗等の空間転用をする場合には庭園構成の障害にならないよう、また2階建増築の場合は主屋の背後に配置するなど、景観的配慮をおこなうこと。

3. 実行可能な保存活動を進めるための方策として、以下のように結論づけた。(1)保存登録の手続き改善、保存内容の明確化、専門家の保存委員会参画など、保存活動を有効にする制度設計を見直すこと。(2)政府主導による建物保存重視のアプローチを避け、先祖礼拝を基軸とした住民の生活に敬意を払い、住民との協働意識をもって取り組むこと。(3)フエ庭園住宅を継承してきた住民間の連携を構築し、コミュニティ主体による保存継承を図ることで共同意識を高めること。

以上、本論文は、ベトナム・フエ京城都市における伝統的庭園住宅の現状について精査するとともに、今後の発展的継承に関して実行可能な方策を示した。これは、歴史都市フエに貢献するだけでなく、経済発展著しいベトナムにおいて、文化継承と社会発展を考慮する都市環境構築に有効な視点と方法を提供するものであり、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士(地球環境学)の学位論文として価値あるものと認める。また、平成24年8月20日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。

論文内容の要旨及び審査の結果の要旨は、本学学術情報リポジトリに掲載し、公表とする。特許申請、雑誌掲載等の関係により、学位授与後即日公表することに支障がある場合は、以下に公表可能とする日付を記入すること。

要旨公開可能日： 年 月 日以降